

館林市総合計画審議会 第4回行政経営の部会 議事録【概要】

1. 日 時 令和2年7月22日（水）午後1時30分から午後4時30分まで

2. 場 所 向井千秋記念子ども科学館3階 会議室

3. 出席者

【審議会委員】7名

部会長 服部覚委員、副部会長 平林恵美委員

角田好二委員、森静子委員、三田英彦委員、中村喬委員、岩崎祐一委員

【策定事務局参事】13名

秘書課長、企画課長、財政課長、税務課長、納税課長、行政課長、人事課長、契約検査課長、市民協働課長、市民課長、出納室長、議会事務局次長、監査委員事務局長

【事務局】3名

政策企画部長、政策推進係長 担当職員

4. 内 容

(1)開 会 事務局

(2)あいさつ 服部覚部会長

(3)説 明 事務局

(4)委員の意見等に対する回答

別紙1により事務局から第3回の委員からの質疑に対し回答。

委員からの質疑なし。

(5)議 事 進行：部会長 説明：所管課長及び事務局

① 基本構想基本目的（案）の審議（資料5）

第3回総合計画審議会行政経営の部会で、協議が終了せず、ご意見がある場合は事務局へ連絡することになっていたもの。結果として、事務局への連絡はなし。

事務局から再度、ご意見の有無を確認

⇒ご意見なし

② 総合計画素案（修正案）の審議

・前期基本計画素案（修正案）について、事務局から資料1-1、1-4に基づき、これまでの会議での各委員からのご意見による修正箇所を説明。

⇒委員からの質疑なし

・総合戦略素案（修正案）について、事務局から資料4-4、4-5に基づき、これまでの会議での各委員からのご意見による修正箇所を説明。

(委員の意見・質問)

・総合計画、総合戦略ともに指標の修正をしていただいた「ホームページへのアクセ

ス数」だが、目標値の根拠はあるのか？また、市内の方と市外の方のそれぞれのアクセス数を把握するのか？

⇒「ホームページへのアクセス数」は記事ごとのアクセス数であり、毎年、現状値の10%が増加するよう目標を立てた。また、市内、市外のアクセス数のついては、現状のシステムでは把握が難しく、システムの入替を行った後に把握できるようにしたいと考えている。

・ホームページ開設から相当年数立っていると思うが、これまでアクセス数は右肩上がりだったのか？

⇒基本的には上がってきている。しかし、これまではトップページを基準としていたが、今後は記事ごとのアクセス数で捉えたいと考えている。

・市のホームページでは、どのような記事にアクセスが多いのか？

⇒詳細データは持っていないが、昨年アクセスが多かったのは路線バスの時刻表が多かったと記憶している。また、現在は新型コロナウイルス関連記事にアクセスが多い。

※③以降は、策定事務局参事は退席となり、会長、副会長、部会長、副部会長と事務局による協議。

③ 答申案（部会意見）の審議

8月25日（火）開催予定の、総合計画審議会全体会議で市長への答申内容（行政経営部会）について協議。

（委員の意見・質問）

・答申について、持ち帰り検討したい場合や、基本計画などについても意見がある場合はどうすればよいか？

⇒答申について持ち帰り検討する場合は、7月27日（月）までに、事務局へ連絡していただきたい。また、基本計画等については、本日の議事（1）（2）の中で協議済みであり、各委員の皆様から了承を得ているものと認識している。必要であれば、答申の中に入れていただきたい。

・各部会で取りまとめた答申案を7月31日（金）の全体会議で議論するというのか？

⇒答申の個別意見は、各部会内で検討したものであり、それを各部会長から全体会議で報告して頂く形になる。他部会の答申についてご意見いただくことも可能ではあるが、部会内で決定したものへのご意見ということになる。

- ・(資料1-1) 6ページ、行政活動分野の施策の方向1にあるが、総合計画を着実に実施するためには、PDCAサイクルを基本として、多角的な視点から評価・分析し、事業の効率化を図る必要がある。また、何かの事象があった時は、その表面だけをみるのではなく、要因を深堀し、その評価を次の施策につなげて欲しい。答申の中にも、そういった内容を取り込みたい。

④ 将来都市像について

(会長の説明)

将来都市像については、審議会が始まった当初事務局側から提案がなされ、各委員の意見が述べられたが、その後、議論があまり深まっていなかった。将来都市像については、当初に合意形成がなされてから、各議論が進められれば良かったと思っている。本日の行政経営の部会では、会長副会長を始め各部会の部会長・副部会長が出席しているので、ご意見を賜りたい。これまでの議論を整理すると、事務局提案のA案「里沼の息づく、持続可能で 強靱なまち 館林」のほか、委員からのご意見で、B案：「水と緑と人が輝く 共創都市たてばやし」(第五次と同じ) C案：「水と緑と人が輝く ヌマベーションシティ たてばやし」 D案：「里沼文化の息づく 共創で 力強いまち 館林」といった意見が出されていた。別な案もあるかと思うが、本日は皆さんの率直な意見を伺いたい。事務局から補足説明はあるか？

(事務局説明)

将来都市像について、事務局(市長)案と、委員から意見をまとめた資料を配布している。委員の皆さまから頂いたご意見は、第2回全体会で頂いたご意見と、その後事務局にお寄せいただいたものを取りまとめたものとなっている。

事務局案は、事務局と市長で何度も推敲を重ねてまとめたものであり、市長の思いの詰まったものである。特に「強靱」には災害だけでなく、人口減少社会においても自治体が維持できるよう、強くしなやかなまちづくり、ハード面だけでなく、ソフト面での対応も含めた思いがある。

(委員の意見・質問)

- ・事務局案にある強靱という言葉だが、館林市は国土強靱化計画という計画を策定している。また、ハザードマップも54ページもあるハザードブックとして非常に素晴らしいものを作成している。強靱という言葉は聞きなれない言葉かもしれないが、逆にインパクトがあるともいえる。また、当然持続可能なまちづくりはだいじであるし、里沼が日本遺産に認定されたことを考慮すれば、事務局案がいいのではないかと思う。

- ・事務局案はよく考えて作られたのは理解できるが、市民が分かりやすくなければ意味がない。持続可能という言葉は歴史文化を守る、自然を守る、人を守るという意味が込められているのだと思うし、強靱という言葉には、自然が豊かでありながら、災害にも強いということを表したかったのだと思う。現代的な課題にも対応できるということも表しているのだろう。ただ、市民に分かりやすく考えると、要は「住みやすい」ということを表現したかったのではないかと思う。

私の提案としては、「水と緑と多彩な文化が輝き住みやすい（or 安心して暮らせる or 笑顔で支えあう）まち館林」を提案したい。
- ・強靱化や持続可能といった、伝えたい言葉を使うのか、わかりやすい言葉を使うのかという問題かと思う。今、新型コロナが蔓延しているが、そういったなか、先日、九州で水害が起こり、大変な状況になった。防災対策の重要性を強く感じている。私は強靱という言葉は必要と感じる。
- ・子育てと学びの部会とすると、笑顔があふれるような社会も望むが、確かに、災害に弱くては笑顔も消えてしまうかもしれない。A案でよいが、そこに分かりやすい言葉が入るとよいのではないか。
- ・B案やC案にある「水と緑」という言葉だが、これまで使われてきた言葉であり、いい言葉だとは思いますが、実は、ここ（館林市）より田舎の方がよほど水と緑は多くあるので、いかななものかと思う。群馬で水と緑というと渋川や水上、上野村などに意識が行くのではないか。水と緑と言ってしまうと、逆に他市町との差別化が図れないと思う。A案は頭に里沼という言葉が使用されており、里沼には里沼文化という文化的な要素も含まれており良いと思う。A案に言葉を足してよいのであれば、「里沼の息づく 持続可能で 強靱な 住みやすいまち（暮らしやすい） 館林」ではどうだろうか。
- ・里沼という言葉はいい。ただ、強靱という言葉は意味は分かるが、ちょっときついうように感じる。
- ・私はA案でよいと思う。
- ・A案を基本として議論が進んでいるようである。しかし、強靱という言葉が気になる方もいらっしゃるようである。強靱を違う言葉に変えるか、中村委員のおっしゃるように、「強靱」の後に「住みやすい」といった分かりやすい言葉を付ける案があると思う。皆さんの意見はどうか？

- ・ 昨年のように大型の台風が多発し、災害が発生する状況を鑑みると、強靱という言葉を使用したい。強靱なまちでなければ住みやすさもないと思う。「強靱で住みやすいまち」とするのが良いのではないか。
- ・ 強靱という言葉に女性が違和感を持つと感じるかもしれないが、今の時代は男女に感覚の差はないのではないか。今後10年間の計画とすれば、「強靱」というのは必要かもしれない。単に「力強いまち」では対応できない時代なのかもしれない。
- ・ 分かりやすさを重視して、提案させていただいたが、これまでの議論を伺っていると、強靱で住みやすいとしていただくのも良いと感じる。
- ・ ここまでの議論を整理すると、A案は、里沼という言葉は文化的という意味も包含できるが、強靱という言葉がややきつく感じる。一方、強靱という言葉には幅広いリスクに対応できるという意味が窺える。B案、C案の「水と緑」は県内にもと素晴らしいとアピールしているまちが存在し、本市との差別化ができない。といったところか。
- ・ 強靱については分かったが、「持続可能」はどうなのだろうか。どういう意味なのか。
⇒ここでいう持続可能は、人口減少社会においても、市の活力や基盤を維持しあらゆる面で持続可能なまちという意味である。
- ・ A案に「住みやすい」を加えた案がいいと思うが、「住みやすい」と「暮らしやすい」ではどちらがいいのだろうか？
- ・ 「住みやすい」よりも「暮らしやすい」方が色々な意味が込められてよいのではないか。
- ・ それでは、ここでは「里沼の息づく 持続可能で 強靱な 暮らしやすいまち 館林」としたいと思う。

⑤ 答申（総論）について

資料8により角田会長から答申総論の素案について説明

(委員の意見・質問)

- ・ 序論の15行目に共創のまちを目指すとするが、先ほどの将来都市像の議論の中で、強

韌のまちを目指すこととしたので、齟齬が生じるのではないか。

・「共創のまちを目指す」を「強靱なまちを目指す」と修正する

・各個別計画の策定期間がばらばらであり、総合計画との連動を考慮すると策定する時期を統一したほうが良い。まず、総合計画を策定し、その後各個別計画を策定するような仕組みができないか。

⇒ 総合計画と各個別計画の策定期間の調整だが、かなり難しい問題と認識している。各個別計画の策定に当たっては、国の施策により早急に策定しなければならない計画であったり、補助金申請に当たって急遽策定する計画もある。

・3PDCAサイクルについての文章で、「存在する資料が適時示されず第六次総合計画に活かされなかった」とあるが、活かされたからこそ、第六次総合計画は仕上がったのではないか？活かされなかったのであれば完成していないということになる。これまでの施策の分析が足りなかったというご意見は確かにあったが、提供された資料が全く活かされなかったわけではないと思う。

④ 各部会の意見交換

フリートークにより各部会間での意見交換を実施。

・経済と都市の部会で、館林市の川魚を活用したブランディングの話の中でになり、城沼と鶴生田川の水質の話に発展した。これは、経済と都市の部会の範疇を越えているのだが、安全と環境の部会ではそういった話がありましたか？

・安全と環境の部会で委員方から、里沼のアピールをするのは結構だが、水質に問題があるのではないかという意見があった。生活用水の流入もあり、難しい課題ではあるが、BOD値が高く、ごみが浮いていることも多いので、出席していた担当課には改善を求めようお願いした。

・また、別の話題になるが、安全と環境の部会においても、産婦人科が不足しており、地元での出産が厳しいというような話題も聞いた。

5 閉会